

国土交通省総合政策局  
情報政策課交通経済統計調査室  
平成26年12月5日(金)公表

# トラック輸送情報

平成26年9月分

平成26年10月分は平成27年1月上旬公表予定

\*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室

電話 03-5253-8111      F A X   03-5253-1567

担当 浜田、桑原   内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

## トラック輸送情報（平成26年9月分）

平成26年12月5日

総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室

担当：浜田、桑原 内線28723

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,274,112トンで、前月と比べ総輸送量が約519千トン増加したため、前月比110.9%（季節調整済み104.6%）となり、前年同月との比較では、約80千トン増加したため、前年同月比101.5%の実績であった。

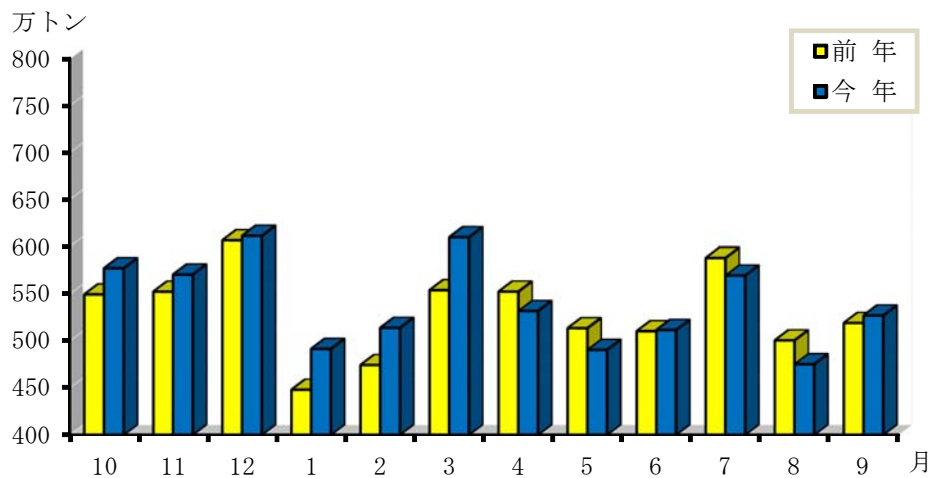
なお、平均稼働日数は23.5日で、前月と比べ1.0日増加し、前年同月との比較では、1.0日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、224,430トンで、前月と比べ約13千トン増加したため、前月比106.2%となり、前年同月との比較では、約6千トン減少したため、前年同月比97.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

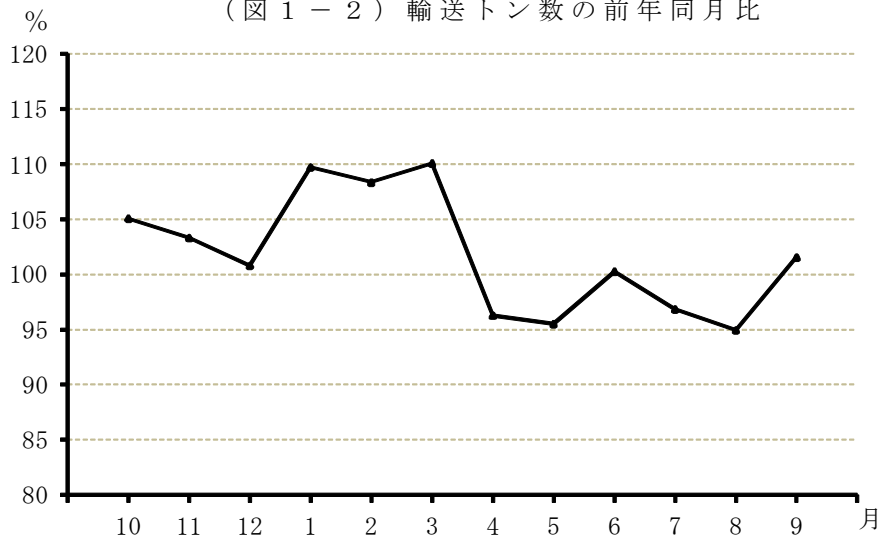
注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

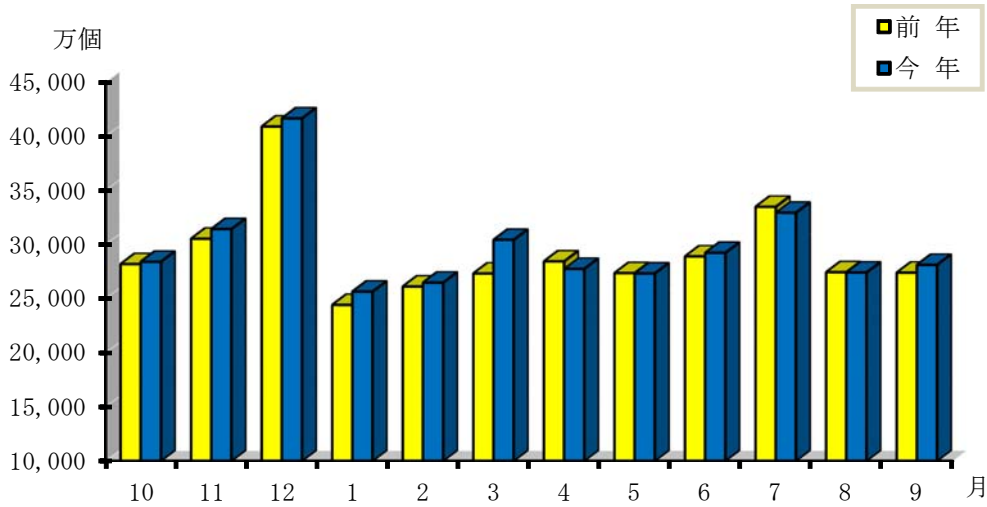


(2) 宅配便の概況

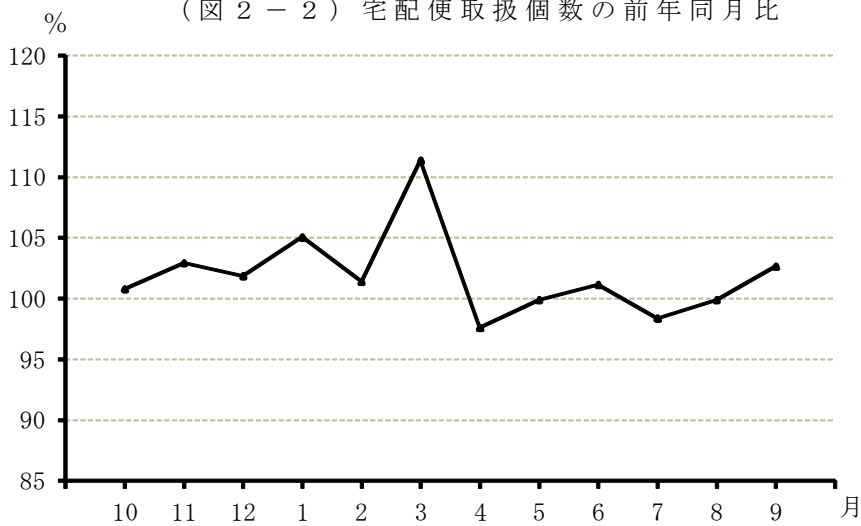
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 281,335 千個で、前月と比べ 約 7,079 千個増加したため、前月比 102.6% (季節調整済み 101.8%) となり、前年同月との比較では、約 7,217 千個増加したため、前年同月比 102.6%の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社(24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月と比べると、全ての品目において、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。その増加要因としては、工場・生産地からの貨物増であった。また、季節的需要増が「機械」、「日用品」で、倉庫から出る貨物増が「食料工業品」で見られた。地域については、関東地方から中国の範囲で増加したと回答する事業者が多かった。

前年同月と比べると、「金属製品」、「機械」で輸送量が増加したと回答する事業者があった。その一方で「農水産品」、「繊維工業品」、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増であり、「金属製品」の主な増加地域は「中国」であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減			
前 月 に 比 べ て	農水産品		5	11		2		
	金属製品	3	5	12	1		その他の金属製品 関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	機械	3	8	8		1	機械部品 関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 8
	化学工業品		10	11	1		合成樹脂 関東地方、中部、大阪、中国	4
	繊維工業品	2	6	14			関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	食料工業品	1	6	13			製造食品	4, 7
	日用品	2	8	12			その他の日用品 神奈川、関東、愛知	4, 8
	その他	3	5	11	1	1		
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		1	13	3	1		
	金属製品	2	3	13	3		その他の金属製品 中国	4
	機械	1	2	13	4			4
	化学工業品		4	13	5			4
	繊維工業品	1	1	15	4	1		
	食料工業品		3	14	3			4
	日用品	1	2	14	5			
	その他	1	3	11	5	1		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者797社/調査対象事業者数1,038社)の輸送量は、前月比 108.2%、前年同月比 101.6%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.6 %	103.4 %	100.8 %	102.2 %	96.5 %	96.4 %	103.5 %	101.6 %	108.2 %	101.1 %	104.9 %	
前 月 比	108.2 %	111.0 %	106.6 %	111.8 %	108.1 %	101.8 %	109.4 %	112.2 %	107.8 %	108.0 %	100.1 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 111.0%、対前年同月比 103.4%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」及び「動植物性飼・肥料」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」及び「セメント」が、また、「木材」及び「工業用非金属鉱物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 106.6%、対前年同月比 100.8%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」、「野菜・果物」及び「水産品」が、倉庫への入出庫増により「穀物」が、工場・生産地からの貨物増が「水産品」、「砂利・砂・石材」、「機械」、「化学薬品」及び「その他の製造工業品」が、また、「木材」及び「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「紙・パルプ」が、また、「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 111.8%、対前年同月比 102.2%であった。品目別では季節的需要増により「動物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 108.1%、対前年同月比 96.5%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」及び「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「化学肥料」及び「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 101.8%、対前年同月比 96.4%であった。品目別では、「砂利・砂・石材」及び「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 109.4%、対前年同月比 103.5%であった。品目別では、決算月による需要が増えた影響により「食料工業品」、「機械」及び「金属製品」が、また、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、夏の大雨のため飲料等の需要が伸びず「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比 112.2%、対前年同月比 101.6%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」が、季節的需要増により「野菜・果物」及び「機械」が、景気の影響による貨物増により「機械」が、また、「木材」、「鉄鋼」、「セメント」、「その他の石油製品」、「化学肥料」及び「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 107.8%、対前年同月比 108.2%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」及び「紙・パルプ」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「機械」及び「廃棄物」が、工場・生産地からの貨物増により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」、「機械」及び「化学薬品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 108.0%、対前年同月比 101.1%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」、「水産品」、「日用品」及び「動植物性飼・肥料」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」及び「その他の窯業品」が、また、「木材」及び「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響により「穀物」及び「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 100.1%、対前年同月比 104.9%であった。品目別では、建設関連の需要増により「セメント」が、商社・問屋からの貨物増により「鉄鋼」が、倉庫への入出庫増により「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、商社・問屋からの貨物減により「紙・パルプ」、「日用品」及び「金属くず」が、倉庫への入出庫減により「非鉄金属」及び「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	北	東	陸	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	1	7			6				1	1			16
	減	2	1									2		5
2. 野菜・果物	増	7	3							5	5	6		26
	減		1							1	1	3		6
3. その他の農産品	増	2						1						3
	減	1										1		2
4. 畜産品	増									1		1		2
	減	1										2		3
5. 水産品	増	3	3			1	1				2	3		13
	減	2												2
6. 木材	増	2	3							3		3	1	12
	減		1			2					1	1	1	6
7. 薪炭	増	1												1
	減													
8. 石炭	増	1	1									1		3
	減													
9. 金属鉱物	増		1											1
	減													
10. 砂利・砂・石材	増	11	4	1	2	2				5	2	4		31
	減	1									1			2
11. 工業用非金属鉱物	増	2	1		1					1	2	1		8
	減		1								1			2
12. 鉄鋼	増			1	2			1	2	5	1	1		13
	減		2		1					1	1			5
13. 非鉄金属	増				1									1
	減											1		1
14. 金属製品	増	1	2		2	1	3					2	1	12
	減		1							1		1		3
15. 機械	増	1	2	1	1	3	3	4	6	5	1	1		27
	減				1	1			1	1				4
16. セメント	増	5	2		1	1			2	1	5	1		18
	減		1		1						1			3
17. その他の窯業品	増					1				1	2			4
	減									1				1

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
品目	増		1									1
	減				1			1				2
19.その他の石油製品	増	3			1			3	1			8
	減	2								1		3
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減	1										1
21.化学薬品	増		2		1		1		2			6
	減											
22.化学肥料	増							2	1	1		4
	減				2							2
23.その他の化学工業品	増									1		1
	減		1					1				2
24.紙・パルプ	増	1			1		1	1	4	1		9
	減	1	3				1		2	1	1	9
25.繊維工業品	増					1			1			2
	減											
26.食料工業品	増	1	3	1			1	2	2	3		13
	減		3	1	2	1	1	3	3	5		19
27.日用品	増		1		2		2	3		5		13
	減				1					1	2	4
28.その他の製造工業品	増		2	1				1	1			5
	減								1	1		2
29.金属くず	増									1		1
	減										1	1
30.その他のくずもの	増							1				1
	減								1			1
31.動植物性飼・肥料	増	5	2	1					1	3		12
	減	1								1		2
32.廃棄物	増		3					1	3	2		9
	減		3							2	1	6
33.輸送用容器	増		1									1
	減				1							1
34.取り合せ品	増				1		1	1		1		4
	減		2							1		3
35.その他	増	2	1	2	4		7	4		5	1	26
	減		1	1	4		2	3		2		13